



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和8年5月号(第2号)
令和8年4月28日発行

【学校の教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心をもち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

学校は 「勉強をするところ」「友達と仲良くするところ」「安心・安全なところ」

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

誤植？

校長 藤田 昌一

あるスキー場のシーズン券に、**藤田 晶一**と印字されていました。正しくは**昌一**なので、再発行を依頼しましたが、「手続きには時間がかかります。リフト乗車に問題はありませんので、そのまま使ってください。」と言われ、訂正をしませんでした。しかし、顔写真は小さく印刷されていますが、白黒で画質も粗いため、万一シーズン券を落としてしまったら、本人確認ができず戻ってこないのではないかと不安なシーズンを過ごしました。

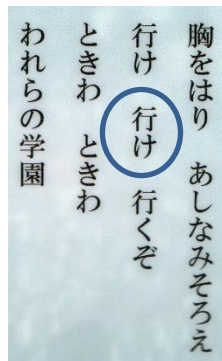
*

歌人の与謝野晶子さん。与謝野鉄幹と結婚する前の旧姓は、**鳳 晶子**でした。実は、明治34年に出版された歌集『みだれ髪』の初版本の奥付には、**鳳 昌子**と印刷されていたようです。記念すべき最初の歌集は誤植で世の中に出回ってしまいました。

※ 参考文献『いじわるな日本語 校閲の現場から』産経編集センター校閲部

*

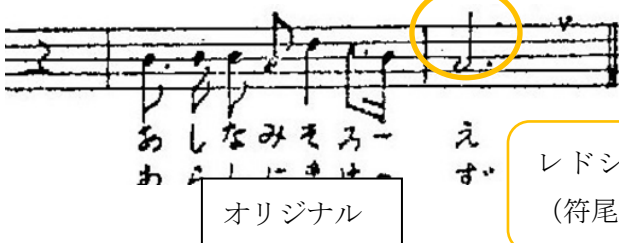
常盤小学校95周年の記念に、航空写真入りのクリアファイルを作成しました。実は、このクリアファイルに印刷されている校歌の歌詞に誤植があります。**行け 行く 行くぞ**のところを、**行け 行け 行くぞ**と印字されていました。校正の段階で気づいて指示をしたはずなのですが、今となっては学校の連絡ミスか、印刷会社の確認ミスかは判然としません。



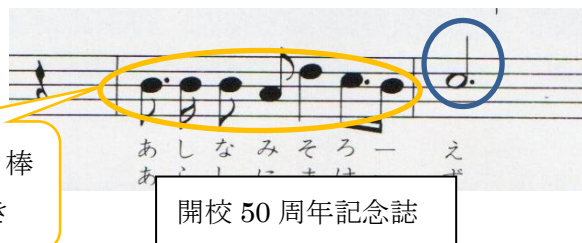
*

このように、世に出ているものが必ずしも正しいとは限らない場合があります。そういった意味では、以前紹介した常盤小学校『開校50周年記念誌』の校歌の音階（オリジナルと異なる部分）は、高いドの音符の棒（符尾）の向きが不自然です。通常**左側下向き**のところ、**右側上向き**になっています。同じ楽譜の中でもこの部分だけ向きが違っているので、誤植だと思われます。

作曲を依頼した当時の子どもたちや教職員の思い、そして、作曲者（著作者）の思いを汲み取ると、オリジナルの音階で歌うのが妥当です。この後、地域の皆様、PTA、教職員、そして、実際に歌う子どもたちにこれまでの経緯を説明し、100周年までのどこかのタイミングで、オリジナルの音階で歌うようにしたいと考えています。



レドシの音符の棒（符尾）は下向き



開校50周年記念誌